

同窓会は鳥羽小を応援しています

平成23年4月6日 入学式



5月14日 鳥羽リンピック

夢がふくらむ学校作りのために

同窓会報

平成24年3月
第21号
鳥羽小学校同窓会
印刷：(有)平田印刷



新入会員紹介

〔平成23年度卒業生〕





ご挨拶

同窓会長 松宮 保彦
(昭和28年度卒)

同窓会会員の皆様には、平成二十四年の新春をご壮健にてお迎えのことと大慶至極存じ上げます。

昨年の三月十一日東日本を襲った大地震による津波は、想像を絶する甚大な被害と多くの尊い人命を無残にも呑み込んでしまいました。日本列島を悲しみのどん底に陥れてしまった、あの悪夢のような出来事は、その当時我々の目や耳に入る状況と言え、テレビを通しての、地獄絵をただ呆然と見ているより術がなく、自然に對する人間の無力さをまざまざと見せ付けられました。

あの日より早や一年になるうとしていますが、余りにも大きな震災であつたが故、詳細についての情報は知る由もありませんでしたが、最近になって、被災地のある小学校では、校舎の被害は無論のこと、教師と生徒が津波により犠牲となり、実に生徒の七十パーセントが亡くなり、懸命の搜索も空しく未だに行方不明者がいることも知りました。被災地の方々に心よりお見舞い申し上げると共に、犠牲となられた皆さんに對しご冥

福を申し上げます。

しかし、人間は自然の「いかり」に對しては無力ではありますが、自然に順応し、そして自然に向かつていく力を持っています。復興に向けて大きく、そして力強く成長することでしょう。

「成長」と言えば、この度の津波で七万本の松が消失した陸前高田市の松原の松ぼっくりから取り出した種が苗となり、げんきに育っているという新聞記事を思い出しました。松原の保存運動を続け市出身の女性が、津波の犠牲になった同級生の供養のために、種を提供。「奇跡の一本松」は枯死状態となったが、種の生命力は枯死せず保たれていた。今では、高田松原の種から育った苗が成長を続けているという。もう二十センチ以上にもなっているでしょう。近い将来、復興と共に土壌条件が整い、消失した松原が再生され、以前の松原が帰ってくる日を祈りたいものです。

昨年度は、校舎改築の一大事業がございましたので母校へ赴くことが多かったのですが、校舎全景

をゆつくり眺めたことはありませんでしたので、先日、校舎全景をカメラに収めてきました。その際に、私の目に強く焼き付いた光景は、天空に向かつてすすくと育っている歴代卒業生の卒業記念樹でした。時代の流れや周囲の環境の変革があっても、上手く育てたならば、人間の寿命以上に生き永らえるのではないかと。そしてこの記念樹が母校の年輪となり歴史となると共に、同窓会の会員が母校を訪れた際に母校に對する愛着心が一層深まり、「鳥羽つ子」時代を思い出す拠所となるのでは。今後、植樹のスペースや維持管理等の課題も出てくるかも知れませんが、こんな時にこそ同窓会も支援してゆかねばと考えていますので、未永くこの事業を継続されんことを祈って止みません。同窓会の組織は、日頃目立たない存在ではありますがありますが、いざと言う時には大きな行動を起こせる母体だと思っております。

この二年間、会長の役職で鳥羽地域・学校協議会の一員として、この地「鳥羽谷」の地域に根ざした「鳥羽つ子」教育の一端にも触れ良い勉強をさせて頂きました。

最後になりましたが、校歌にもありますように、「靈鳥輝く我が校旗」の如く、我が母校が光り輝き、同窓会会員皆さんの益々のご健勝とご隆昌をご祈念申し上げます。

挨拶と致します。





あの日あの時あの場所で

学校長 島 津 静 夫

今年一月二日の夕方、昭和五十年
度卒業の同窓生十八名が、昔の名
残を探すべく母校に足を運んでく
ださいました。約半分の方はおよ
月の帰省とお聞きしております。
少々お屠蘇が入っている事もあ
り、体育館では本校の職員のピア
ノ伴奏に合わせて校歌の大合唱と
なったそうです。卒業後三十五年
ほど経ち、校舎も新しくなってい
ますので、昔の名残といえれば確
かに体育館の位置にある額に入っ
た校歌だったのかもしれない。
「向こう鏡の山高く」と口ずさ
む中で、昔の小学校時代の風景や
友達の姿がきつと浮かんできたこ
とでしょう。このように昨年に引
き続き同窓会での学校訪問が実現
しています。

名残といえどもひとつありま
す。それは、木造校舎の時は職員
玄関の横に花崗岩の柵に囲まれ
て、また、次の鉄筋校舎になっ
てからは山際の庭池の側に、そして
現在は新校舎の前にランドセルの
モニュメントと並んで立っていま
す。ご存じ「二宮金次郎」の石像
です。二宮金次郎（尊徳）は明治

時代に各地で農村復興などに力を
尽くしましたが、少年時代は貧し
く、薪を背負いながらも本を読ん
で勉強したということです。その
勤勉さが小学生の理想・手本とし
てふさわしいと考えられ、各地に
建てられたのではないでしょう
か。いろいろな思い出の中にはこ
の金治郎の石像にまつわることも
多いことと思います。

さて、尊徳と並んで石で作られ
たランドセルがあります。これは
平成元年の改築時に設置されたも
ので、その土台には「知徳体」と
書かれています。今年度、本校の
教育目標は「きたえよう頭と心と
体」とシンプルですが、まさに同
じです。教育の不易と流行といわ
れることがしばしばありますが、
この「不易」の部分で、小学校に
おいては特に大切にしたい部分で
す。そして、ICTによる授業な
ど流行の部分を取り入れながら目
標が達成できるように教職員一
同、一丸となって取り組んでいる
ところです。これらの取組の具体
的な内容は「鳥羽小学校ホーム
ページ」に掲載しておりますので

是非ご覧いただき、ご感想など
いただける幸いです。

(<http://korenitene.or.jp/~tobas/>)

話題は変わりますが今考えて
いることです。昨年の三月十一
日、東日本大震災は私たちに自
然の大きさと人工物の脆さの両
面を決定的な形で見せつけまし
た。現代社会の奢りへの痛烈な
反省を求めるものともなりまし
た。あれから一年が経とうとし
ていますが未だ傷跡が深く残り、
原発問題も未来への課題を抱え
先が不透明です。今後とも被災
地の一刻も早い復興を願いつつ、
この教訓に深く学ぶ年にたいと
思っています。

末筆ですが、帰郷された折り
など機会がありましたら気軽に
母校へお立ち寄りくだることを
念じ、会員の皆様のますますの



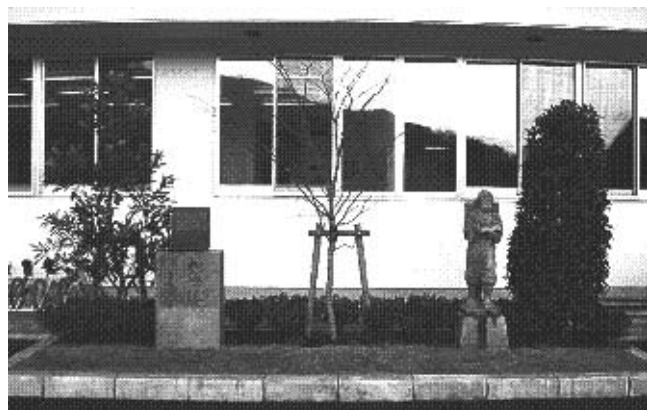
できることを

澤 清 彦

(昭和27年度卒)

今年十月の始め、新装なった鳥
羽小学校を訪ねた。
もちろん一人やのうて、友あり
である。在学当時のトラウマか？

どうも、学校の門は入りにくい。
いっしょに行ったのは、旧南条町
出身で現在タイ王国の古都チェン
マイの田舎に住んでいる、Yさん



ご健勝をお祈り申し上げご挨拶
いたします。

一家三人とである。

Yさんは十年ほど前にタイの美人と結婚、そして彼女の実家近くに居を構え、その後生まれれた娘（真弓ちゃん）との三人暮らし。

その娘が昨年五月の連休明けから約一週間、鳥羽小学校に体験入学をしたことから、今年の来日時にも南越前町から、耐震工事の終わった鳥羽小学校に友達と再会するために来たのである。

娘が成人した時には、どちらかの国籍を選択しなければならず（現在は日本とタイの両方を持っている）その時、タイだけでの生活では選びようがなく、小学生の時から日本の学校や日常生活を体験させるために、Yさんが以前から計画していた行動である。

一家は我が家で一週間生活し、真弓ちゃんは黒田の子供たちといっしょに登校し、まったく理解できない日本語の授業を受け、給食も同じものを食べて、夕方帰宅するという毎日だったが、登校拒否することもなく、楽しそうな学校生活を送っていた。

また、学校が特別に時間をもうけて、タイ国についての学習を計画、Yさんが図表などによってタイ国の概要や教育・文字言葉などを面白く話し（Yさんは二十五年ほど大阪で中学の理科教師の経験あり）、真弓ちゃんは幼少のころから習っている、タイの古典舞踊

を二曲踊って、鳥羽の子供たちに披露したのであった。

わたしが、Yさん一家と交流をはじめたのは、六年前にタイ・チェンマイでロングステイを始め、その時手にした日本語情報誌の記事からであった。

記事の内容は忘れたが、その筆者の経歴に「・・・。なお、出身は雪国北陸の福井県のある山村」とあり、南国の古都で故郷福井の人が住んでいるんやうと思つたら、会ってみたくなり情報誌の出版元を訪ね、Yさんのメールアドレスを知り、すぐに会いたい旨を願ったところ、どちらも時間は十分にある身、すぐに日時と場所が決まった。

チェンマイ市内より約四十キロ北方の街、メーテンとのこと、市内より乗合トラックに乗り約五十分、片言のタイ語が通じなかったため、大分手前で降ろされてしまった。ところが、何処にも親切な人がいて、Yさんがオートバイで迎えに来てくれるまで、わたしにタイ語で話しかけていてくれたのである。

ダム湖の畔の食堂で三時間ほど食べて話して、チェンマイ在住の福井県人会設立の準備まで出来たのであった。わたしが行くとき会が開かれ、その後、武生出身の人が居ることが判り、強制加入してもらい毎回楽しんでいる。

わたしがチェンマイにいるのは、日本の冬季の十二月〜三月の間で、寒くなると泣かされていた膝の痛みも全くなく、快適な日々を過ごしている。

先にブータン国王夫妻が来日され、優しい心づかいとにこやかな笑顔で、ブータン大好き日本人が増えるとともに、GDPという言葉が、我々日本人の心を揺さぶった。物質的な幸せより心の幸せ、この気持ちはわたしが四十数年前、青年海外協力隊員で過ごしたフィリピンで体験し、家庭と地域の責任からある程度解放された時には、再びというのがわたしの人生計画であつたのだ。

六十五歳で仕事を辞め、何力

国かを回って最終的にタイ国が安全面、衛生面、経済面などが丁度良かったため、その年から三ヶ月の体験ステイを実行し、今に至っている。

ちよつと個性的で面白い友人が年々増えていき、毎日が忙しく、タイ語という難題に常に脳を刺激され、自分の足で歩きまわり、歳をとるのが日本に居る時よりゆつくりしているように感じるチェンマイ生活である。

自分の生活を愉しみながら、Yさんの夢である自分の子供をはじめとして、両国の子供たちの交流を進めて行く手伝いをしたいと思っている。

では、今年も行ってきます。

（上黒田在住）



鳥羽小学校の思い出

山口 久仁子

（昭和34年度卒）

団塊の世代と云われる私達が、鳥羽小学校を卒業して五十余年、

遠い記憶の糸を手繰り寄せていくと、懐かしい石の校門、正面の松の傍らには、二宮金次郎の石

像・・・あの木造の鳥羽小学校が浮かんできます。

今は楽しい思い出ばかり。四十分程かかる通学路も、のどかで晴れた日など、霧のかかっている中

をみんなで通いました。足も子ども頃充分鍛えられたと思っていました。

帰りは道草の宝庫で、行きつ戻りつ、今のように車が通るわけではないので、子どもの足はあちこちに向いたようです。

下駄箱のある入口から入った講堂は、朝着くと思いいにみな遊んでいました。

お手玉が流行った時は、持ち寄って座り込んで遊んでいる輪が幾つもあり、ドッジボールやよく木に登ったり、手作りグラライダーの飛ばし合いもありました。暗幕の張られたところで、新田先生が映写機を回されて映画鑑賞をしたのも楽しい思い出です。

そこから入ると左手が洗い場で、続いて給食室があり、大きな鍋で田辺さんや小使いさんが給食を作ってくれました。今のようには食材が豊かでない時代、子どもたちの食事を作る為に、大変苦労して頂いた事でしょう。脱脂粉乳のにおいと共に懐かしく思い出されます。

五・六年の時、受け持っていた新任の新屋先生は、初めて聞いた越前訛りも新鮮で、少し怖そうな先生だったけど、皆、お兄さん先生のような気持ちだったと思います。

特に云う事を聞かない男子には、精神鍛練棒が大いに役立ち、

今ではB組の合い言葉のような懐かしさがあります。

大雪の時等、二階教室の脇窓から何人も男子が飛び降りたり、卒業間近にタワシで教室の床を研いで、白く仕上げたりした事もありました。

校庭では、斜めに五十メートル走の白線が引かれたところで走ったり、縄跳び競争に向けてみんなが跳んでいたりしました。鉄棒は苦手で、出来なかつた逆上がりの事は今でも覚えています。ラジオ体操やフオークダンス・・・。

思い出の断片は次々と尽きませんが、お世話になった数多くの先生方、同級生みんな、子ども達を見守ってくださった皆様、そして故郷に心から感謝しております。

(千葉県柏市在住)



記念写真

宇野 順 治

(昭和38年度卒)

鳥羽小学校を卒業して四十八年、昨年還暦になり、また、三十六年勤めた会社を定年退職しました。

今年第二の人生スタートにあたり、小学校時代を思い出してみたいと思います。押入のダンボール箱から半世紀前のまさにセピア色したアルバムを取り出し、一枚二枚とめくり目に留まったのは、やはり少年野球の写真でした。この一枚の記念写真が写されるまでの記憶をたどりたいと思います。

四年生になった時に、速水先生が学校に来られ、それから鼓笛隊と野球が本格的に始まりました。当時、四年生から六年生でA・B二チームあり、私はBチームに入れたもらい、毎日、放課後に猛練習が始まったのでした。最初の頃は無我夢中で、ついに行くのが精一杯でした。田んぼに落ちたボールも裸足になって取りに行った事もありました。徐々に球に慣れ、自分自身、野球に目覚め、練習が楽しみになり上級生のプレーをしつかりと見るようになって来たと思います。この頃、兄貴の影響

もあつてかキャッチャーをやる事が多く、その後、五年生になった時には、Aチームのキャッチャーとして大会に出場させてもらいました。ますます野球に熱が入り、当時プロ野球選手のバッチか何かを集めていたように思います。このころは、当然のように帽子はジャイアンツ(巨人)、これしか無かつた様な気がします。とにかく野球が中心の毎日でした。いよいよ六年生になり練習も一段と厳しくなり、熱血教師速水先生のノックが強くなつていくのがボールを渡すときに分かりました。今になつて思うと何が何でも優勝させたいとの気迫だったのでしょう。エラーなどしたら「こらーなにしろあほー」と、大声で怒鳴られ、私も何度か悔しくて泣いた記憶があり、練習は全員真剣になり、チームも次第に締まつてきたように思います。練習試合も何度かやり、その試合中キャッチャーフライを追って二宮金次郎の石像にぶつかりこけ、そのとき見ておられた高木校長先生に「ファイトがあつてよろしい」と

褒めてもらったことは今でも覚えています。

上中町全校の野球大会がいよいよ始まり、ここでの記憶やエピソードについては、先日、竹内伝太夫君の職場で話ができ、彼の記憶もたどってもらいました。少しの時間でしたが、当時に帰れて楽しいひと時でした。大会は勝ち進み、念願の優勝戦は、午後から野木小学校とわが鳥羽小学校と決まりました。ところが、昼ご飯を食べて試合に備えていたそのとき、彼（伝太夫君）が昼に食べたソーセージにあたったようで、体中にジンマシンができ、すぐに病院に行きました。彼は、事故で腎臓を一つ無くしていた事もあったて心配でしたし、試合は無理ではないかと思っていたところ、直ぐに帰って来てプレーもやってくれたことになり、本当に嬉しかった事を覚えています。他にも、弥七君は、おたふく風邪に



ありがとう

宮田 ひとみ

(昭和42年度卒 旧姓 森下)

今年初の雪景色を炬燵から眺めています。例年なら流れるこんな

瞬間だが、三月十一日の東日本大震災のテレビ映像が、脳裏をよ

なり体調も悪かったようでした。そんな中、全員野球で戦いましたが、接戦の末惜しくも敗れ準優勝となりました。

この表彰式後の一枚の記念写真、高木校長先生、速水先生、奥本先生、宮田君、吉村君、米田君、藤川君、野田君、高橋君、森下君、竹内君、重長君、宇野。結果は準優勝でしたが、全員誇らしく写っており、一生大事にします。そしてこの感動を与えてくださった速水先生をはじめ諸先生に改めて感謝いたします。有難うございました。

私の好きな言葉で締めさせていただきます。

「真剣だと 知恵が出る
中途はんばだと ぐちが出る
いいかげんだと 言いわけばかり」

皆様のご健康とご多幸を心から祈りいたします。

(敦賀市在住)

ぎった。あの日以来、被災地の方々の、苦悩や復興によせる希望や命懸けの姿に、『人間ってスゴイ!』と、感動しているのは皆さん一緒だと思います。同時に、家族、友人との日常に感謝と愛おしさが込み上げてきます。私達には、ふる里『鳥羽谷』があります。

さて、私は学生時代の大阪での四年間を除き、日笠に嫁ぎましたが、仕事柄ずっとこの土壌で生きて来ました。学生時代は、汽車から降りると迫り来る山々、見上げて狭い空、北国の曇天が、たまらなく嫌で、ため息交じりで駅に降りた事を思い出します。それでも亡き父の「勉強した事は故郷の人に返せ」の言葉に、保健師として三十年余り、健康な郷土づくりに従事しています。地域の方々から「ひとみちゃん」と親しく交流して頂き、どっぴり鳥羽谷に根付いています。年を重ねると不思議なもので、今では、すり鉢のような山々に抱かれた駅に立てば安堵感さえ感じるのです。そして、一番に目をやるのは母校……。

私達は二十八人は、旧木造校舎で五年、残りを鉄筋新校舎で過ごしました。木造校舎の始業合図の鐘の音、長い廊下の雑巾がけでは汗だく。時には、すいばらのおまけ付き。恩師は、学

校での父母でした。叱られ、拳骨も受けました。その時恩師は、怖いというより悲しそうな顔で、一言一句語られました。「もう二度とすまい」と心に響く言葉でした。冬になると恐怖の言葉が「それ行け」です。体育の時間に積雪の校庭に素足で出ると……身震いして始めた雪合戦や旗取り。ガキ大将の雪玉は強烈。「よっしゃあ。入れよ」の先生の声の頃には、体から湯気が出て足はボカボカでした。

白銀の世界の登校もスリル満点。凍てついた田を、ぐいらい経路を上級生が見分けて導くのです。本当は先生も知っておられたでしょうに、子供の冒険を禁止せず見守って頂きました。北川でも魚釣りや秘密の野苺・桑の実を食べましたね。長期休暇では、子供会でシジミを大量に採って、村中を一輪車で売りに回りました。あの頃は、大きな烏貝、亀、ザリガニも一杯でしたが、今はどうでしょう。か……。下校後は、塾等皆無の時代でしたから、男女問わずもつばら、村中を、いや山の中も庭の様に走り回りました。猪や熊の恐怖の現代には考えられません。校庭の二宮尊徳の教え、『可愛くば、五つ教えて三つ褒め、二つ叱って善き人とせよ』の通り、鳥羽谷の自然は、私の核を

創造してくれました。ありがとうございます。鳥羽小学校。そして故郷の皆さん。

さて、今、平成二十六年開通を目途に、舞鶴若狭自動車道のインターチェンジ工事の最中で、この景観も大きく変貌しようとしています。今こそ私達は、未



やさしい場所

正木 千賀子

(昭和59年度卒 旧姓 清水)

来の子供達に、安全で豊かな故郷を残せるよう、「鳥羽もん」の知恵と力の発揮時ではないでしょうか。未知の人や文化も鳥羽流に受け入れ、かつ、頑固に守ってまいりましょう。

(若狭町日笠在住)

「よしつ田舎に帰ろう」ある年のお盆休み、私は都会で疲れた身体を癒しに帰省していた時のことです。実家の居間で大の字でくつろいでいた私に、近所のおばさんが顔を出し「あら千賀ちゃんお帰り。はよ、こっち(小原)に帰っておいで」と声を掛けてくれました。その温かい言葉に、スーッと気持ちになり 田舎に帰ることを決めたのです。

こんな風に私は両親だけでなく近所の方々に守られていた事を思い出しました。学校の登下校、畑で働くおじさんおばさんに「ご苦労さんです!」元氣よく挨拶するのは当たり前。そうすると必ず「お帰り千賀ちゃん」と返事が

返ってくる。当時は何も感じていなかったけれど、この当たり前のやり取りが、子どもの頃の私にどれほど大きな安心感を与えてくれたのか、今はよく解ります。

そうして都会に憧れて出て行った私は、鳥羽谷に帰ってくる事になりました。ダンスの勉強をして来た私に出来る事、やりたい事はやっぱりダンスインストラクターでした。現在も若狭町、小浜、滋賀でエアロビクス、ヨガ、フラダンス等を指導させて頂いています。四年前にフラダンス教室をスタートさせて「おばまガールズ」を結成しました。そのきっかけが、四年前のアメリカ大統領選です。オバマ候補と小浜が同じ名前とい

う事で「オバマ候補を勝手に応援する会」が民間団体で立ち上がり、その時私達にお声が掛かったのです。オバマさんがハワイ出身だからフラダンスでイベントを盛り上げて欲しいと依頼がありました。おやじギャグ的発想から始まったイベント、面白そうだし喜んでもらえるならやってみよう!!と活動が始まりました。おばまガールズの活動は国内外のメディアに取り上げられました。色々な所に招待してもらい、たくさん踊る機会を頂きました。ハワイ州議会で表彰されたり、オバマ大統領の前でこそ踊りませんでしたが大統領の妹さんは素晴らしい経験をさせて頂いています。ですが、私にとって招待されて一番嬉しかった場所は鳥羽地区敬老会でした。私を小さい頃から知っていて下さる方々の笑顔の中で踊れることが、この上なく幸せでした。その時頂いた「帰ってきてくれてありがとう」

のおばあちゃんの言葉は本当に嬉しかったです。

私はフラを踊る時、とても優しい気持ちになります。ハワイのアロハスピリットの教えがあります。『優しくさと思ひやりを持って人と接しなさい。謙虚な心と感謝する心を持ちなさい。時には忍耐することと人と繋がり調和しなさい。』人はひとりでは生きていきません。人の繋がりの大切さ一人ではないんだという事をいつもふるさと鳥羽は思い出させてくれます。ふるさと鳥羽の優しさとはワイのフラの優しさは、私の中では同じように感じられるのです。そして私が今ここにいられるのも、全ての原点がこのやさしい場所にあったのだと感じています。ここに生まれ育った事に感謝しています。

マハロ ヌイロア!! (ありがとうございます)



自分の中心核

竹内 奈々

(平成2年度卒)

①蟹はよく食べるの? ②冬は雪

がたくさん降るの? ③串に刺して

焼いた鯖があるって本当？

これは、私が福井県出身だと言ったときによく聞かれる質問である。十八歳で鳥羽を離れ、福井市での大学生活を経て、就職と同時に始めた滋賀での生活も早や九年。周りの人たちは、全国各地から来ているからか、一部の情報を元におおよそ同様の質問をしてくる。子供の頃に家の二階の屋根から下に積もった雪に飛び降りた話や、串に刺した焼鯖は、日常的にスーパ―に置いてあることを話すと皆が目を丸くする。そして、私はなぜか得意顔になる。

友人を実家に連れてくる際は、事前に「田舎やでー」と伝えたはずなのに、実家が近づいてくると「うわー、すごい田舎！」と誰しもが思わず発する。小学校の近くの田んぼで、皆で裸足になり田植えをした話や、校庭での焼き芋等の思い出話を聞かせると「『まんが日本昔ばなし』の世界みたい」と言われる。そして、私はまた得意顔になる。

私の現在の仕事は、半導体向け材料の開発である。利益や効率が最優先であり、時代を先読みすることを求められ、データが一番信用される世界に身を置いている。仕事は生活の糧を得る手段であり否定する気はないが、その世界に染まりきらず客

観的に見ているのは、やはりこの田舎で生まれ育ったからではないだろうか。

私が小学校生活を送った時代は、バブル景気に沸き昭和から平成へ改元した頃である。海士坂に住んでいたため、二年生までは麻生野分校に通っていた。行事があるときなどは本校に行くのだが、前日の夜は御飯をしつかり食べ、気合いを入れてから布団に入る。上級生たちと集団登校をするため終始小走りになる。しかし、前日の気合いのおかげか、興奮していて疲れなどない。学校に着くと、一緒に鳥羽保育所へ通っていたはずの本校の子たちはなぜか少し先を進んでいるような気がして、距離感を確かめるように話し始め、次第に打ち解けていく。三年生になり、大勢で授業を受けることに緊張はあったが、すぐに楽しいと思えるようになったのは、担任の岡本瑞子先生の国語の授業であった。新しい漢字を覚えるときは、皆一緒に歌に合わせて指で宙に字を書きながら書き順と漢字を覚える。この授業が大好きであり、特に「いとへん」のときは、歌う前から皆がワクワクしていた。「いーとーへーんーにーチャン♪チャン♪チャン♪」という、この「チャン♪チャン♪チャン♪」が

楽しくて仕方なかった。

学校帰りは、ピーピー豆を制服のポケット一杯に詰め込み、一つずつ取り出しては中の豆を捨て、半分にちぎってピーピー鳴らし、気に入る音が出るまで繰り返す。食べられる草を探したり、花の蜜を吸ったり、書ける石を見つけては道路に絵を描いたりとなかなか家に辿り着かない。そして、帰り道に出会う人には、上級生に教わったとおりの「こんにちは」、遠くで畑仕事をしている人を見つけたら大きな声で「ご苦労さんです」と叫ぶ。下校の時間までもが学びの場であった。

このような鳥羽での日々は普遍的無意識なものであった。一方で、小学生当時の近所のおばあさんたちが、二十年経った今



「本物の言葉」は

相手の心に響く

池 上

(平成10年度卒)

誠

上中を離れてからもうすぐ七年になるうとしています。私は高校を卒業後、名古屋にある大学へ通い、初めて一人暮らしを経験しました。また、大学では全国から集

まった人たちと交流があったり、昔は考えたこともなかった海外旅行・ホテルマラソン挑戦など、色んな経験をしました。卒業後は名古屋にある海運会社(物流業界)

もおばあさんでいることが不思議で仕方なく、流れる時間は一人ずつ違うのではないかと錯覚することもある。時空の謎に首をかしげながらも、変わらない片鱗に触れると安心する。

家庭、学校、地域の方々からいつも正しいことや大切なことを教示され、ときには叱って育てられた。こうして形成された子供の自分は現在の自分の中心核となり、鳥羽を離れてから積んだ経験は、その核から幾重にも伸びる放射状のものと解釈している。中心核は変わらない。それが嬉しい。だから、私はこれから田舎自慢を続ける。

(栗東市在住)

に入社。そして結婚。もうすぐ社会人として四年目を迎えようとしています。時が経つのは早い……。

私は、上中にある三田という集落で育ちました。一年に何度か帰省する度に「大きくなったなあ」と声をかけてくれる近所の人たちはいつも変わらない笑顔で迎えてくれます。自分も毎回この時間を楽しみに帰省しているのかもしれない。社会人になり「時間」というものに追われる日々が続いている中、地元に戻ってくるとその状況を一度リセットしてくれる。地元はそういう場所だと社会人になって特に思うようになりました。

昔を思い出すと、本当に自由に過ごしてきたなと感じます。小学校の時は夏休みのプールが待ち遠しくて短パンの代わりに水着を着て行ったり、雪の中を走り回ったり転げ回ったりと小学生らしく楽しんでいたいと思います。鳥羽小学校に入学した時に校長先生がおっしゃっていた言葉に「自分のことは自分でやる」という言葉があります。この言葉は、色んな意味があると大人になって少しだけ理解できるようになりました。「自分のことは自分でやる」「自分はこの言葉を」「自分の意思で、自分の力で、自分の道を切り開いていこう」という意味だと解釈しました。一

人で生きていこうということではありません。人は一人では生きていけません。でも自分の道を決めるのは最後は自分であり、周りの人ではないということです。仕事をしていく中でこの言葉の重要性を身に染みて感じています。

仕事をしていく中で難しいのは、自分の気持ちを相手に正確に伝えること。そして相手の言いたいことを正確に理解すること。よく就職活動の中の面接で「コミュニケーションを取ることで得意」とアピールする学生が多いと思います。自分も当時はその一人でした。でもそれはコミュニケーションではなく、ただ自分の言いたいことを好きに言っていただけだと痛感しました。自分の気持ちを言葉にしても相手に理解してもらえないければ、それでは意味がない。ただの自己満足に終わってしまふ。小学校の時に校長先生がおっしゃっていた言葉を今でも覚えてるように、心に響く言葉はずっと残ります。そういう言葉を言えるようになるにはその言葉に自信がないと言えません。自信をつけるにはひとつひとつ積み重ねていく行動と経験だと思います。全てのことが自分に繋がっているということ意識して一日一日をこれからも全力で頑張っていこうと思います。

(名古屋市在住)

児童作文(家庭の日作文コンクール 金賞)

家族で行った広島

鳥羽小学校4年 竹内陽南

広島市の電をおりたら、原ばくドームが目の前いっぱいにとびこんできました。私は、この時はじめて、ここが世界で初めて原ばくが落とされた場所なんだと、体中にビリビリと感じました。

数週間前に、家族で原ばくでひがいをうけた人達のドラマをテレビで見ました。私はこんなこわい事が本当にあったのかと信じられずにテレビを見ていました。

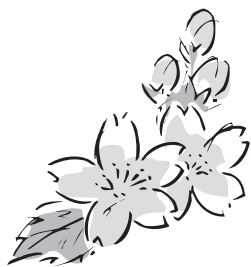
ある日お父さんが、今年は広島に旅行に行くぞと言いました。広島に着いて、広島やきがおいしいとひょうばんの店に行きました。初めて食べた広島やきは、本当にとってもおいしかったです。店の人も親切で、私はすごく広島が好きになりました。広島は、私の思っていた以上にビルも多くてとても都会でした。どの人もみんな元気で生き生きと見えました。

そんななかで見た原ばくドームは、戦争が終わって元気がなくなった広島町の町や私に、戦争で原ばくが落とされたんだという事をわすれてはいけないう言っているように思いました。家族みんなが原ばくをじっと

ながめていました。お姉ちゃんが、ほんまに原ばくが落ちたんなやあとボソツと言いました。私もこわいなあと思いました。レンガもコンクリートもボロボロで、この中にいた人達はとうとうたんだろうと思いました。お父さんは、この建物のすぐ上で原ばくがばく発した事やこの中にいた人はそく死だった事を教えてくれました。私はこわくて体がかたまりました。お母さんは、原ばくドームの横に流れる川を見て、大やけどをして、熱くて苦しくて川にとびこんだんやなあと悲しそうな顔で言いました。私は、お母さんの手をギュツとにぎりました。

赤ちゃんから大人まで、原ばくによつて、たくさん命がうばわれた事を、原ばくし料館の写真や品やろう人形で知りました。私は、心がいたくて、し料館にいるのがつらくてたまりませんでした。

私は、つまらない事で、お姉ちゃんとケンカする事があります。お姉ちゃんなんかないなかったらよかったのと思う事もありま



す。お父さんやお母さんのいう事を聞かない事もたくさんあります。ただ戦争で家族をなくした人達の事を考えたらはずかしくなりました。生きたくても生きられなかった人もたくさんいました。私は、こうして家族といっしょにいられる事は、とても幸せな事なんだという事がわかりました。私は、今こうして家族と旅行にこれた事が、急にうれしくてたまらなくなりました。私は、今日の事はずっとわすれないでいようとその時思いました。



学校の近況

【学年別児童数】

	男子	女子	計
1 年	7	6	13
2 年	8	9	17
3 年	15	13	28
4 年	10	8	18
5 年	8	7	15
6 年	12	11	23
計	60	54	114

【集落別児童数】

	男子	女子	計
大鳥羽	7	7	14
上黒田	4	2	6
麻生野	5	3	8
海土坂	2	2	4
三生野	2	2	4
無 悪	1	7	8
三 田	3	3	6
小 原	8	7	15
南	4	3	7
山 内	10	1	11
持 田	0	2	2
長 江	2	4	6
朝 霧	12	11	23
計	60	54	114

【平成23年度 教育目標】

きたえよう 頭と心と体

- ・『自分の考え』を伝え合う子の育成
- ・時間を守りよりよい行動ができる子の育成
- ・自ら体力作りに取り組む子の育成

【主な行事】

4月	入学式・始業式・集落児童会・身体計測・PTA総会・教育懇談会・歯科検診・敬老会
5月	春季遠足（親子遠足）・内科検診・PTA奉仕作業・鳥羽リンピック・交通安全教室
6月	避難訓練・プール清掃・前期校内研究会・プール学習・民生委員と語る会・地域学校協議会
7月	教育懇談会・終業式
8月	自然教室
9月	始業式・PTA奉仕作業・自由研究発表会・全国学力調査
10月	町小学校陸上記録会・後期校内研究会・修学旅行・校内マラソン・秋季遠足
11月	小中学校音楽発表会・就学時健康診断・地域学校協議会・学校訪問コンサート・ひまわり教室
12月	器械運動発表会・人権集会・教育懇談会・子育て講演会・終業式
1月	始業式・町学力調査・学校給食週間・鳥羽っ子学習発表会・県学力調査
2月	スキー教室・地域学校協議会・新一年生体験入学
3月	6年生を送る会・卒業証書授与式・修了式

平成22年度 鳥羽小学校同窓会決算書

<収入の部>

(単位：円)

	22年度予算額	決 算 額	比較増減	備 考
会 費	428,000	432,000	4,000	1,000円×432戸
協力金	9,100	9,100	0	職員700円×13人
寄付金	0	0	0	
雑収入	86	537	451	利子他
繰越金	39,214	39,214	0	
合 計	476,400	480,851	4,451	

<支出の部>

(単位：円)

	22年度予算額	決 算 額	比較増減	備 考
会議費	25,000	22,434	△2,566	役員会、理事会、編集委員会
事務費	40,000	38,430	△1,570	印刷インク・マスター用紙・郵送料等
事業費	400,000	367,765	△32,235	
会 報	130,000	106,320	△23,680	同窓会報第20号
教育振興	270,000	261,445	△8,555	児童教育活動、スキー教室補助
予備費	11,400	5,000	△6,400	
合 計	476,400	433,629	△42,771	

平成23年度 鳥羽小学校同窓会予算書

<収入の部>

(単位：円)

	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
会 費	428,000	432,000	4,000	1,000円×432戸
協力金	9,100	9,100	0	職員700円×13人
寄付金	0	0	0	
雑収入	86	78	△8	利子他
繰越金	39,214	47,222	8,008	
合 計	476,400	488,400	12,000	

<支出の部>

(単位：円)

	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
会議費	25,000	25,000	0	役員会、理事会、編集委員会
事務費	40,000	40,000	0	印刷インク・マスター用紙等
事業費	400,000	410,000	10,000	
会 報	130,000	130,000	0	同窓会報第21号
教育振興	270,000	280,000	10,000	児童教育活動、スキー教室補助
予備費	11,400	13,400	2,000	
合 計	476,400	488,400	12,000	

平成23年度 鳥羽小学校同窓会役員名簿

役員	集 落	氏 名	幹 事	山 内	宇 野	一 美
会 長	大鳥羽	松 宮 保 彦	"	上黒田	澤 本 啓 一	
副会長	三 田	岡 本 嘉 樹	"	三生野	畑 中 泰 信	
"	無 悪	竹 内 睦 子	"	大鳥羽	檜 鼻 幹 雄	
顧 問	三 田	池 上 矩 平	"	無 悪	福 谷 功	
"	長 江	清 水 治 一	"	長 江	小 川 倅 史	
"	三 田	小林 銀右エ門	"	南	東 弥千代	
"	無 悪	兼 松 勉	"	大鳥羽	檜 鼻 ふじよ	
"	三 田	福 谷 洋	監 事	麻生野	香 川 哲 夫	
"	学校長	島 津 静 夫	"	海士坂	竹 内 洋 子	
			事務局	教 頭	岩 崎 好 信	

役員	集 落	氏 名	氏 名
理 事	大鳥羽	畠 中 秀 行	松 宮 由 貴
"	上黒田	橋 本 浩 利	澤 和 弘
"	麻生野	三 宅 淳 志	水 江 俊 之
"	海士坂	竹 内 久 典	西 山 八 弘
"	三生野	吉 村 和 夫	西 川 正 展
"	無 悪	橋 本 良 幸	岡 野 京 一
"	三 田	田 邊 喜代志	小 林 浩 樹
"	小 原	山 本 明 志	森 北 良 嗣
"	南	東 正 浩	南 谷 知 宏
"	山 内	宇 野 幸 一	寺 西 浩 子
"	長 江	瀬 間 達 雄	谷 口 文 代
"	持 田	大 下 宗一郎	三 宅 照 彦
"	朝 霧	桧 鼻 壮 栄	小 川 平 二

編集後記

記録的な豪雪とインフルエンザに見舞われています。しかし、児童はみんな元気で、私達に元気を与えてくれています。

第二十一号同窓会報を発行するにあたり、同窓会員の皆様から沢山のご投稿を頂きました。懐かしい思い出や想いをありがとうございました。

いましました。

今回、家庭の日作文コンクールで金賞を受けられました竹内陽南さんの作文も掲載させて頂きましたが、家族、平和について純な心が伝わります。

今後とも内容の濃い、ほのぼのとした同窓会報となるよう願っています。

(岡本記)

鳥羽谷で育む、心豊かな鳥羽の子



桜・集団登校



敬老会



春の親子遠足



交通安全教室



田植え体験学習



トンボ池で生活科学習



プール学習



P T A 奉仕作業



町小中学校陸上記録会



町小中学校音楽会



いもほり体験学習



もちつき体験学習



鳥羽っ子学習発表会



子育て講演会



スキー学習